

## 祝 辞

北海道白老東高等学校が、記念すべき創立三十周年を迎えましたことを、同窓生を代表して心よりお祝い申し上げます。

美しい樽前山を仰ぎ、太平洋を望む自然豊かな大地に包まれた東の地に、地域住民の熱い期待に応えて、昭和六十二年四月、北海道白老東高等学校として開校しました。

私達一期生 百八十三名が入学し、その一步を踏み出しました。

開校以来、同窓生も 3700 名を超え、多くの同窓生が各界の第一線で活躍しております。今、三十年の歴史に思いを馳せ、一步一步確実に積み上げて来た母校の歩みを思うと、大変感慨深いものがあります。

これもひとえに、これまでに在職された多くの先生方、保護者の皆様、在校生の皆さん、同窓会、講演会並びに地域の皆様方の並々ならぬご尽力の賜物でございます。

ここに、母校の発展にご尽力いただきました全ての方々に、厚く御礼申し上げます。

私は、一期生として学校の門をくぐりましたが、「自彊・聡明・礼節」の校訓のもと、自分たちで新たな校風を作り上げていく嬉しさと同時に、大きな使命感をもち過ごした高校生活は、私の人生にとって、掛け替えない財産であり、誇りであります。

雨の日も風の日も毎朝校門で私達生徒を出迎えて下さった水野初代校長をはじめ、献身的に教育に対して情熱を燃やし、私達を指導して下さった先生方との高校生活を、昨日のこのように思い出します。

わが国の学校を取り巻く現状は、人口減少により、小規模校の統廃合が進み、本校も開講当初の一学年四学級から本年度から二学級となりました。同窓会長として、将来への不安を感じるものですが、弓道部や陸上部などの部活動の活躍、また、地域の方々への明るい挨拶、地域清掃など、生徒の皆さんが、地域の発展に寄与し「地域から愛されている学校」としての校風が脈々と受け継がれていることに、とても喜びを感じます。

白老町は、2020 ねんに国立の施設として全国五番目となる国立アイヌ民族博物館が開設されることから、海外からの来訪者の交流人口の増加とともに「世界に開かれたまち」となることが期待されます。私は、グローバル化の進展とともに、今後さらに多様な価値観を認め合うことが重要になり、地域特性を生かした魅力ある学校づくりを目指して行くことが、十年後、二十年後の将来に求められると考えております。

白老東高等学校の存続のためにも、学校・PTA・同窓会・地域が手を携えて、「地域の誇り」を守り育ていくことを期待してやみません。

最後に、北海道白老東高等学校がいつまでも誇りと愛着ある学校へと発展し、たくましい若者が育ちゆく場であり続けることを心から祈念し、お祝いの言葉といたします。

平成二十八年十月二十九日

北海道白老東高等学校

同窓会長 貳又 聖規